

ひびきあい

学校だより 10月号

令和8年9月30日

横浜市立新田小学校

一生の宝物となる「友情」を ～50年の時を超えるメッセージ～

校長 近江 学

創立134年を迎える本校の校庭や校舎を見渡すと、先輩方が残してくださった卒業記念制作や記念樹が静かに佇んでいます。そうした形あるものも、そして一人ひとりの胸にある大切な思い出も、そのすべてが積み重なって今の新田小学校の歴史をつくっています。

先日、そうした卒業記念制作の一つである校庭のすみの像の足元に、「1973年 卒業記念 6年2組 百瀬学級」と記された新しいプレートが取り付けられました。この像は、当時「卒業記念に何を残そうか」と子どもたちが話し合い、「友達」をテーマに「肩を組んで仲よし」の姿を自らの手で形にした作品です。今回、卒業生のみなさんが「今の児童に分かるように」とプレートを設置してくださいました。作業中、通りかかった低学年児童ふたりが「手伝うよ！」とバケツに水を汲み、たわしで像を磨いてくれる一幕もあり、卒業生の方々も後輩の温かさに胸がいっぱいになったそうです。



後日、私のもとに一本の電話がかかってきました。当時の担任・百瀬先生からです。プレートが設置され、美しくなった像の写真が届き、あまりの嬉しさにお電話をくださったのです。百瀬先生にとってその学級は、大学卒業後に初めて受け持った大切な教え子たちです。丘の下にあった、木のぬくもりあふれる木造校舎で過ごした日々。「あの子たちは本当に『肩を組んで仲よし』の言葉通り仲間づくりが得意でね。月日が流れた今も、大人になった教え子たちから元気をもらっているんです」と懐かしそうに語ってくださいました。

今回の取り組みにあたり卒業生の方からは、「**友達を大切にしていれば、何十年たっても、会えば大きなパワーをもらえる。今の新田小の子どもたちにも、友情やつながりをずっと大切にしてほしい**」という温かいメッセージを後輩たちへいただきました。

肩を組み寄り添う像が象徴するように、50年前に込められた「友情」の想いは、今も母校と子どもたちを見守り続けています。今、校庭で友達と肩を組み、笑顔で駆け回る子どもたちの姿は、先輩方の当時の姿とまっすぐ重なります。先輩方の思いを受け継ぎ、本校での出会いと友情が子どもたちの人生をずっと支える宝物となるよう、一日一日を大切に育んでまいります。